



南側外観。建物は丘のように隆起した4つの屋根が組み合わせられ、地面と建物が連続する。ランドスケープと建物の独特な風景が駅前に広がり、小松の街の顔となっている。

選評

駅前で操業していた機械製造工場移転に伴う再開発の一環として計画された、ものづくり科学体験・交流のための建物である。古くより、ものづくりを主軸として発展してきた街の歴史・特性を踏まえ、市民の街に対する誇り・愛着を育んでいくことが目指されている。駅前再開発にありがちな、どこにでもあるような商業施設を安易に配するというのではなく、街のアイデンティティを高めていくという明確なコンセプトに基づいた意欲的な事業企画である。これからの地方都市のあり方を考える上での大切な視点と言えよう。計画・設計においては、オブジェのような四つのウェーブ状の起伏が組み合わせられ、周囲の地面と建築が連続的に繋がり、ランドスケープと建築が融合した独特の風景がかたちづくられている。駅か

らもその特徴的な風景が目に入り、来街者に小松という街を強く印象付ける結果となっている。緩やかな曲面で構成された屋上は、さまざまな草花で緑化され、散策のための遊歩道が整備され、さらに風と連動した夜景の演出もなされるなど、多世代の市民がさまざまなかたちで楽しむことのできる場所となっている。駅前という公共性の高い地に屋上を利用して、市民が気軽に立ち寄り憩える場所を生み出したことは、優れた設計提案と言えよう。

施工面から見るとシンプルなコンクリート造ではあるが、屋根・壁面は、さまざまな曲面が組み合わされた複雑な躯体形状となっている。さらにその下部では、曲面とサッシが取り合うために、高い躯体精度が求められる。そこで、場所に応じて異なるコンクリート



西側外観。緩やかな曲面の屋上はさまざまな草花と散策のための遊歩道が整備され、多世代の市民が楽しめる。この緑化された屋根は断熱性能を高め、庇となって日差しを制御しているほか、雨水の貯留槽としても機能する。



BCS賞



2015年 第56回
BCS賞受賞作品紹介

サイエンスヒルズこまつ



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2015年で56回を数えます。

< 2015年 第56回 BCS賞受賞作品 >

あべのハルカス 大阪木材仲買会館 北九州市立戸畑図書館 サイエンスヒルズこまつ JPタワー
静岡市清水文化会館 マリナート 資生堂銀座ビル Junko Fukutake Hall 鈴木大拙館 ダイビル本館・中之島 四季の丘
はあと保育園 明治大学創立130周年記念和泉図書館 ROKI Global Innovation Center -ROGIC- [特別賞] 上州富岡駅

建築主より

科学とひとづくりが際立つまちを目指して

2014年3月にサイエンスヒルズこまつがJR小松駅東口にオープンし、2016年1月には来館者30万人を達成することができました。ヒルズ誕生により、小松駅前のイメージが大きく変わりました。県内外からこれまでにない来訪者が増え、屋外では緑化されたヒルズ屋上を散策しながら霊峰白山や市街地を眺望される姿が定着し、夜は風のイルミネーションが多くの人たちを楽しませています。そして、夏休みや正月

には里帰りの方々が度々訪れるなど、市民をはじめ幼児から大人まで世代を超えた交流の場となっています。ヒルズによって人づくりとものづくりの小松市のパワーが高まったことで、理科・科学大好き青少年を育成し、サイエンスのメッカへと成長・進化させていきます。

この度のBCS賞では、ハード・ソフトともに評価をいただきましたことに、心より感謝を申し上げます。



小松市 市長
和田 慎司
Shinji Wada



全景夜景。風の流れを感知するガーデン灯が敷地全体に配置され、夜には建築と科学との融合が視覚化された。

設計者より

多くの人の知恵の成果

この計画は「設計プロポーザル」の公募で選ばれたものです。敷地の広さの割には建築の規模はあまり大きくなく、敷地全体をどう生かすのかが問われているものでした。同時にこれからの小松市を担う新しい表現を求めるものでもありました。私たちは敷地全体が公園であるような、大地のウェーブ(丘)の建築を提案しました。ロマンチックで誰にでも理解でき賛同し

てもらえる建築なのですが、実現するには多くの高いハードルがありました。工費や工期、埋蔵文化財を保護するための基礎の検討、ウェーブの躯体をつくるための技術、植物を根付かせる工夫など、小松市の方々や施工者、設計者など多くの人の知恵がうまく結集できたことにより、この美しい建築を実現することができました。皆様に感謝申し上げます。



株式会社スタジオ建築
計画
代表取締役
元倉 真琴
Makoto Motokura

施工者より

つくれない建物はないという強い意志と実現に向かう連帯感

この計画の図面と模型を初めて見た時、不規則なその曲線の美しさに魅了されました。それと同時に、この建物を実物大でつくりあげることが本当に出来るのかと不安を覚えました。この建物の施工計画は、工事開始直後から建築主・設計者と協議を重ね、それが施工可能かどうか検討しながら手探り状態で進めました。設計図から施工図への具現化から始まり、複雑な形状での鉄筋・型枠・コンクリートの施工、曲面カ

ーテンウォール、法面屋上緑化の施工手法等、数多くの課題をモックアップで表現し、試行錯誤しながら検証することで困難を克服しました。この工事に携わる関係者と共に苦難を分かち合いながらこの作品は実現しました。関係者すべての方々がいいものをつくっていこうという連帯感を持ち、新しい命を吹き込むことができました。この建物をつくりあげるためにご協力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。



株式会社熊谷組
北陸支店 建築部
作業所長
君島 康之
Yasuyuki Kimijima

打設工法を採用するといった綿密な施工計画が施され、それに基づいて、地道ではあるが丁寧な施工管理がなされている。結果として、違和感なくランドスケープと融合する建築が実現している。さらに、敷地内の埋蔵文化財にダメージを与えないように、基礎掘削時に専門家の立ち会いを行うなど、きめ細かな配慮がなされていることも特記される。

このように、建築主、設計者、施工者のそれぞれが、その役割を十全に理解し、高いレベルでの提案を行い、市民に愛される建築を実現している。ここに、その成果を高く評価するものである。屋上の緑地については、市民に愛され広く利用されているというものの、その維持・管理は容易ではないものと推察される。今後、市民と協働して植栽の管理を行ったり、外構施設のさらなる充実を図ったりするなど、永く愛され続ける公園とするための関係各位の工夫・努力を期待したい。

【選考委員】
小泉雅生・六鹿正治・田中隆吉

左／ウェーブ下にある展示室。
右／1枚ずつ形状の異なるクシ型枠。2次元と3次元を組み合わせた複雑な曲面からなる屋根スラブを施工するため、コンクリートの打設方法を場所に応じて変えるなど、細やかな配慮が施された。



計画概要

建築主：小松市

設計者：(株)スタジオ建築計画
UAO (株)
(有)金箱構造設計事務所
(株)科学応用冷暖研究所

施工者：(株)熊谷組
加越建設 (株)

所在地：石川県小松市こまつ杜2
竣工日：2013年10月31日

敷地面積：14,428.84㎡
建築面積：6,153.21㎡
延床面積：6,063.03㎡

階数：地上3階
構造：鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造